日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

赤十字は、動いてる！

SAVE365
Japanese Red Cross Society

日本赤十字社は、皆さまのご支援で、
365日活動を続けています。

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

一緒なら、救える。

TEAM SAVE365
Japanese Red Cross Society

日本赤十字社の活動は、
皆さまの寄付によって支えられています。

赤十字　寄付

日本赤十字社
日本赤十字社 @JRCS_PR
japaneseredcross_official
JapaneseRedCrossPR



日本赤十字社に
ご支援いただき、
まことにありがとうございます。

2020年初頭から続くCOVID-19によるパンデミック、
昨年2月に勃発したウクライナ人道危機、
さらにこの間にも繰り返し襲ってくる自然災害。
日本赤十字社は総力を挙げてその対応に取り組んでまいりました。

こうした国内外における活動は、ご寄付やボランティア活動など、
困っている人たちを助けたいという
皆さまの利他的なお気持ちによって支えられています。
それは税や社会保険のように法によって求められているものではなく、
また雇用契約のような対価を介在したものでもありません。
困っている人を助けたいという
皆さまの温かいお気持ちの結実したものです。
だからこそそれは尊いのだと思います。

昨年暮れの12月28日、
日赤創設者である佐野常民の生誕200年を迎えましたが、
佐野の大切にした「惻隠(そくいん)の情」という言葉は、
まさに「困っている人たちに同情し、その人たちを助けたい」という
皆さまのお気持ちを表すものでありましょう。
創設者の理念を今日に実現すべく
日赤は今年も活動を続けてまいります。

日本赤十字社 社長　清家 篤

赤十字をはじめて知る方へ



Q. 災害が起こった時、赤十字って何をしているの？

A. 赤十字は、国内外の**災害（地震や台風など）現場に駆けつけ、いのちを救うための医療や看護の支援**を行っています。
また、普段は災害に備えた訓練や啓発活動に取り組んでいます。

Q. 誰が活動しているの？

A. 普段は赤十字の病院に勤めている**医師・看護師・助産師・薬剤師**のほかに**ボランティア**などが活動しています。





Q. 赤十字は税金で活動しているのですか？

A. いいえ、赤十字の活動のほとんどが**皆さまからのご寄付により支えられており**、救護班の育成や救援物資をお配りするための費用に役立てられています。



赤十字は、動いてる！

赤十字は、災害が起きた時に駆けつけるだけではありません。

365日、それぞれの部門がそれぞれの場所で動き続けています。

災害に備えた訓練、知識や技術の普及、

物資の整備、医療現場や海外での活動など、

すべてが人を救うことにつながっている。

どんな状況下でも、人間のいのちと健康、尊厳を守ること。

その使命を胸に、赤十字は今日も明日もあさっても、

かけがえのない日常を支える活動を続けています。

赤十字の活動

国内災害救護活動 ▶ P5

地震や台風などの自然災害発生時に現地へ駆けつけ救護活動を実施します。





国際活動 ▶ P7

海外で発生した災害や紛争、感染症等の病気で苦しむ人びとを救うため、救援や復興支援、予防活動に取り組みます。

ボランティアなどの育成 ▶ P8

全国の赤十字ボランティアや青少年赤十字メンバーの育成を行います。





救急法などの普及 ▶ P8

身近な人を救うための知識と技術の普及を行います。

※医療事業、血液事業、社会福祉事業は、それぞれ診療報酬や血液製剤の供給収益、介護保険収入などを主な財源として活動しております。

あなたのご寄付で実現した

国内災害救護活動



令和4年8月大雨災害

［令和4年8月］

停滞する前線などの影響により、東北地方や北陸地方などでは記録的大雨となり、山形県と新潟県に大雨特別警報が発令され、各地で河川の氾濫や土砂災害が発生しました。発災直後から関係機関と連携し、救護班による被災地域での巡回診療、被災地診療所での医療支援などを実施したほか、炊き出しや被害住宅の片付けなどのボランティア活動、義援金の受付を行いました。

主な実績

［職員の派遣］
救護班……73人
連絡調整員……53人

［救援物資の配布］
毛布……1,344枚
緊急セット……489セット
安眠セット……155セット
タオルなど……1,242枚
飲料水……150本

［赤十字ボランティアの活動］
ボランティア活動……341人



令和4年台風第14号

［令和4年9月］

台風第14号の影響により、九州を中心に西日本では記録的な大雨や暴風となり、宮崎県では大雨特別警報、鹿児島県では暴風、高潮、波浪特別警報が発令され、各地で河川の氾濫や土砂災害が発生しました。発災直後から関係機関と連携し、職員の派遣や救援物資の配布を実施しました。

主な実績

［救援物資の配布］
毛布……1,290枚
緊急セット……594セット
タオルケット……420枚
ブルーシート……810枚

［職員の派遣］
連絡調整員……14人



地域密着型「赤十字防災セミナー」を全国各地で開催

大規模災害から人びとのいのちを守るためには、地域における「自助」「共助」の力の向上が重要です。赤十字防災セミナーでは、被災時におけるイメージを構築し、災害発生直後のいのちを守る具体的な方法について普及しています。この事業により、地域の方々の防災・減災に関する知識・意識・技術を高め自らの「行動」を変えることで、災害による被害を減らすことに繋げていきます。



ACTION!防災・減災プロジェクト

「防災」への興味・関心が高まる9月と3月に、「災害への備え」を訴求する「ACTION!防災・減災」プロジェクトを実施しています。地震が発生した時の「家の中の危険」について気づき、備えていただくためのコンテンツとして、絵本動画『おうちの中のモンスター』を制作しました。

※職員及びボランティアの活動人数は全て延べ人数です。記載された内容以外にも救援物資の配布を行っています。

あなたのご寄付で実現した

国際活動



ウクライナ
人道危機救援

2022年2月以降、ウクライナ各地で戦闘が激化。日々、死傷者が多数報告され、多くの人びとがウクライナ西部や国外に避難するなど極めて深刻な人道危機が起こっています。
日本赤十字社は、資金援助に加え、ロジスティクス要員、薬剤師、臨床心理士、放射線技師など多岐にわたる人材をウクライナ及び周辺国に派遣。引き続き、ニーズに基づき支援を実施するとともに、武力紛争下のルールを規定する国際人道法を普及していきます。

主な活動実績

・仮設診療所での診察や巡回診療車を使った保健医療支援
・水供給システムの復旧やパイプ・水タンクの修理支援などの給水衛生支援
・子ども向けの遊び場や避難者へのこころのケア電話相談などの心理社会的支援
・食料、水、衣服、日用品、SIMカードなどを配布する物資支援
・現金給付 など



中東人道危機救援

2011年にシリア紛争が始まって以来、隣国レバノンでは現在でも約150万人のシリア難民が避難生活を送っています。その多くは非公認の居住区で暮らしています。日本赤十字社は現地レバノン赤十字社と協力し、各戸へのトイレ設備の設置など生活環境の改善に取り組んできました。水・衛生分野での支援を継続する一方、子どもや女性など、より脆弱な立場に置かれやすい人びとに対するアプローチを強化していきます。

主な活動実績

・各世帯や学校への衛生用品の配布やトイレ・手洗い場の敷設
・河川堤防の設置
・感染症予防キャンペーンの実施 など

あなたのご寄付で実現した

ボランティアなどの育成/救急法などの普及



奉仕団による
「高齢者サロン」など
地域ぐるみの支え合い

全国に約114万人が登録されている赤十字ボランティア。多岐にわたる活動のなかでも、高齢者支援の分野では、孤立しがちな高齢者が集う場づくりを行うなど、支え合いが広がっています。例えば、ボランティアが赤十字の健康生活支援講習で学んだ活動を取り入れ、参加者の満足度を考えるなど、工夫しながら運営しています。



全国の高校生が
「気候変動」をテーマに
国際交流

青少年赤十字(JRC:Junior Red Cross)は、赤十字の考え方を通じて、人を思いやり、主体的に行動する子どもを育成することを目的としています。全国約350万人のメンバーが約24万人の先生の指導の下に活動を展開しています。令和4年にオンラインで開催した国際交流事業には日本から220人、海外24カ国の姉妹赤十字・赤新月社から238人、合計458人が参加しました。青少年赤十字メンバーは、講演やグループでのディスカッションを通じて、気候変動について学びながら交流を深めました。



「やさしい日本語」で
赤十字救急法の講習を
開催

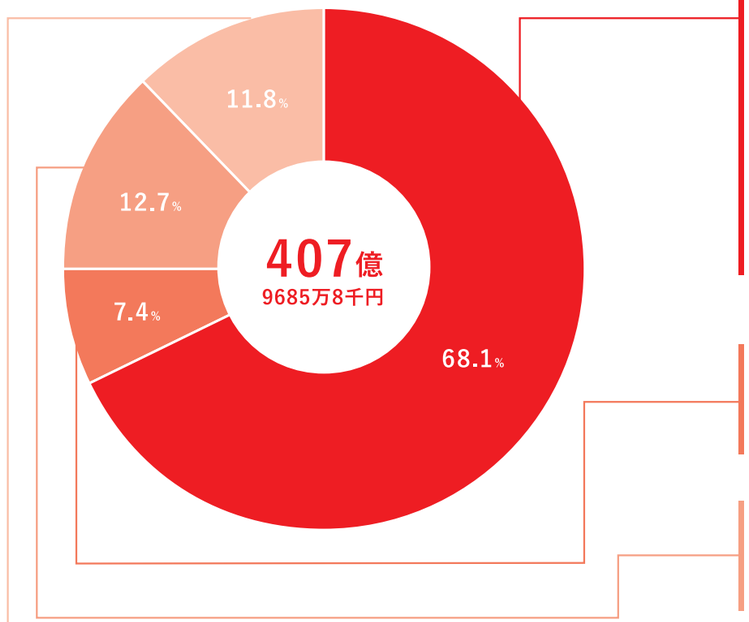
地域で暮らす様々な方に対して、赤十字救急法を広め、誰もが安心できる町づくりを目指しています。日本語が苦手な外国籍の方々を対象にした講習会では、“やさしい日本語”を用いて、身ぶり手ぶりも交えて心肺蘇生とAEDの使い方を伝えました。

ご寄付の活かし方

令和3年度 歳出（一般会計）の報告

国内外で苦しんでいる
人びとを救うため、
皆さまから託されたご寄付を
活用しています。





苦しんでいる人びとを救うための費用

277億7946万7千円

国内外における救護活動

国内災害対応や国際活動、
復興支援などに使われた費用です。



防災活動

防災イベント・セミナーなどに
使われた費用です。



ボランティアの育成

ボランティアの育成や活動に
使われた費用です。



広報活動のための費用 | 30億3928万6千円

広報・普及活動

会員への参加呼びかけや広報活動、寄付の募集のために
使われた費用です。

事務のための費用 | 51億7256万8千円

事務管理

支部、病院、社会福祉施設の事務局・本部機能として、施設負担を
除いた事務経費に使われた費用です。

その他の費用 | 48億553万3千円

次年度の活動

次年度当初の活動のために使われる資金です。

※千円未満を切り捨てているため、円グラフの合計金額と各項目の合計金額は一致しません。

あなたのご寄付でできること



皆さまからのご支援は、赤十字のさまざまな活動や救援物資の購入などにカタチを変えて、困っている人たちに寄り添います。

5,000円 ▶ 緊急セット / 1セット 4人分

避難先での生活にあると便利なマスク、ウエットティッシュ、ラジオ、懐中電灯、歯ブラシなどが一式収納された「緊急セット」を1セット（4人分）備えることができます。



10,000円 ▶ 心肺蘇生トレーニングキット / 6人分

簡易的に心肺蘇生を体験することができるトレーニングキットを整備することで、大人数での講習を実施することができます。また、感染対策に配慮した講習を実施する際にも活躍します。



2,000円 ▶ 毛布 / 1人分

避難所での生活に不可欠な「毛布」を1人分備えることができます。



25,000円 ▶ 心肺蘇生訓練人形 / 1体

日本では、7分に1人が心肺突然死で亡くなっています。突然の心停止に陥った人を救う「心肺蘇生」を学ぶための器具「心肺蘇生訓練人形」を準備することができます。



3,000円 ▶ 安眠セット / 1人分

避難先での生活を少しでも快適に過ごしていただけるよう、キャンピングマット、枕、アイマスクなどが一式収納された「安眠セット」を1人分備えることができます。



100,000円 ▶ 訓練用AED / 1台

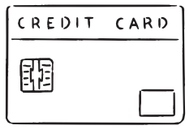
心停止から5分以内に電気ショックを行うことで、いのちを救える可能性は高まります。「AED」の使用方法を学ぶための器具「訓練用AED」を整備することができます。



一緒なら、救える

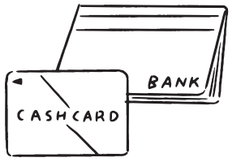
日本赤十字社へのご寄付の方法

クレジットカードで寄付



Webサイトからの登録により、クレジットカードでご寄付いただけます。ご寄付は、毎年・毎月・今回のみからお選びいただけます。

郵便局・銀行の口座振替で寄付



ご希望の口座から自動引き落としでご寄付いただけます。お申込みには「会員加入申込書」をお送りください。ご寄付は毎年・毎月からお選びいただけます。

郵便局・銀行の口座への寄付



日本赤十字社では郵便局（ゆうちょ銀行）や銀行などで寄付専用口座を開設しております。

お近くの日本赤十字社窓口で寄付



お住まいの都道府県にある全国47箇所の日本赤十字社支部窓口でもご寄付を受け付けております。また、自治会、町内会等を通じたご寄付についても、地域の防災・減災活動やボランティア育成等に活用しています。

スマホアプリ
J-Coin Pay「ぽちっと募金」を使って寄付

みずほ銀行や全国150以上の金融機関で口座をお持ちの方は、スマホ決済アプリ「J-Coin Pay」からご寄付いただけます。

カードのポイントで寄付



クレジットカードでの買い物や、各種サービスでカードに付与されるさまざまなポイントを利用して、ご寄付いただけます。

コンビニで寄付



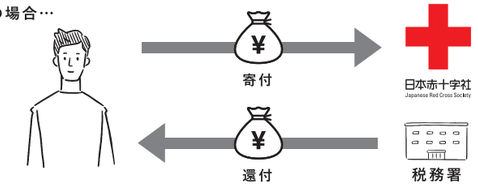
コンビニエンスストアにある情報端末（ローソンマルチメディア端末「Loppi」、ファミリーマート「マルチコピー機募金受付サービス」）で、ご寄付いただけます。

寄付方法の詳細は、日本赤十字社Webサイト「寄付する」のページをご覧ください。

税制上の優遇措置

日本赤十字社へのご寄付は確定申告することで個人の所得税や、企業の法人税の優遇措置を受けられます。

個人の場合…



所得控除の計算式

A：年間所得総額 － B：（寄付金額※ － 2,000円） ＝ C：所得税課税対象額

※ただし、寄付金額は年間所得総額の40％が上限となります。

表彰制度のご案内

活動資金や献血などにご協力いただいた場合は、表彰制度を設けています。詳しくは、日本赤十字社のホームページ又は、各都道府県支部までお問い合わせください。

※寄付などの協力に際して取得する個人情報は、日本赤十字社の広報活動や事業資金などの募集のためにのみ使用します。詳しくは、日本赤十字社Webサイトをご確認ください。